

外部評価結果

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数
1. 理念の共有と実践	7
2. 事業所と地域とのつきあい	
3. 運営推進会議を活かした取り組み	
4. 市町村との連携	
5. 身体拘束をしないケアの実践	
6. 運営に関する利用者、家族等意見の反映	
7. 運営に関する職員意見の反映	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	1
1. 馴染みの人や場との関係継続の支援	
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	5
1. 思いや意向の把握	
2. チームでつくる介護計画とモニタリング	
3. かかりつけ医の受診支援	
4. 重度化や終末期に向けた方針の共有と支援	
5. 災害対策	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	7
1. 一人ひとりの尊重とプライバシーの確保	
2. 食事を楽しむことのできる支援	
3. 排泄の自立支援	
4. 入浴を楽しむことができる支援	
5. 日常的な外出支援	
6. 居心地のよい共用空間づくり	
7. 居心地よく過ごせる居室の配慮	
合計	20

訪問調査日	令和6年3月5日		
調査実施の時間	開始10時00分～終了15時00分		
訪問先事業所名 (都道府県)	グループホーム ほのぼの平尾の家 (三重県)		
氏名	伊藤 直子		
評価調査員の氏名	氏名	中神 恵子	
	職名	管理者	介護支援専門員
事業所側対応者	氏名	伊藤 文子	秦 美智子
ヒアリングを行った職員数 (3)人			

○項目番号について

- ・自己評価と外部評価は共通の同一のシートを使います。
- ・外部評価は20項目です。

○記入方法

外部評価には、訪問調査による客観的な視点で確認したサービスの実施状況と、更に質を高めていくために各事業所に期待したい重点事項を記入します。外部評価は1事業所ごとに評価を行います。複数ユニットの場合の外部評価結果は、1ユニット目の評価票に記入します。(2ユニット目以降の記入は不要です)

○外部評価のポイント

一律の基準を設けて実施しているか、否かを判断していくのではなく、項目のねらいにそって利用者本位の視点にたち、サービスの実施状況を確認していきます。「次のステップに向けて期待したい内容」は、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、管理者と調査員で話し合い、その事実を記入します。

○用語の説明

家族等・・・家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
家族・・・家族に限定しています。

運営者・・・事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員・・・管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム・・・管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1 自己評価及び外部評価結果

(別紙4)

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2470201290		
法人名	有限会社コーブンシャ		
事業所名	グループホームほのぼの平尾の家		
所在地	三重県四日市市平尾町78-12		
自己評価作成日	令和6年2月7日	評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action_kouhvu_detail_022_kani=true&JiyosyoCd=2470201290-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	令和6年3月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

理念の「ゆっくり・いっしょに・たのしく」を掲げ、住み慣れた地域で、その人らしい暮らしの実現に向けて、本人の気持ち、家族の気持ちやその時の状況を常に考えて支援しています。特に家族との繋がりを大切にして、利用者の思い、家族の思いに寄り添った支援を心掛けています。緊急時には主治医と24時間体制で繋がり、看取りについても本人、家族と早い段階から話し合い、ACPIにも取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

事業所は東名阪自動車道・四日市インターから程近く、四日市市街と湯の山方面を結ぶ幹線道にも近いアクセスの良い立地である。事業所周辺は地元住民の生活路が続き、開設以来長年に渡り地域住民との関わりが深く、昔々のお付き合いや長閑な雰囲気が残る自然豊かな地域である。居室は1・2階にあり廊下や階段の左右に手摺りが設置され、階段角にも安全の囲いが設置されている。平均介護度は1.99で自立度が高い。2階の利用者は階段昇降が日常生活の自立を促す大切な運動になっている。認知症介護の豊富な経験と知識を持つ管理者と介護支援専門員は職員と一体になって「ゆっくり・いっしょに・たのしく」の理念の実践に向けて、利用者本位の一日を過ごして貰えるよう取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目：9, 10, 19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11, 12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30, 31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目：28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)- です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づいて利用者に寄り添い、職員が一丸となって、利用者一人ひとりに合わせたケアを実践している。	利用者に日々変化がある中「ゆっくり、いっしょに、たのしく」の理念を職員は同じ目線で利用者に関わり、具体的なケアに繋げている。毎月のミーティングで理念について振り返りを継続している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	令和5年3月から、運営推進会議を2カ月に1回再開し、自治会長、民生委員、地域住民の方に参加していただき、交流している。	地域行事は自治会長から直接知らせが届けられ「ふるさと広場」でのイベントも活動が始まっている。近隣住民からは季節の野菜やお花が届き、世間話をしてふれあう機会が多い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前から地域の行事に参加し、地域の方々との交流を通して、認知症の人の理解や支援を支えてもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年より運営推進会議が開催され、家族、地域の方、行政の方々にご意見をいただき、サービスの向上に活かしている。	昨年3月より推進会議が再開された。家族参加も多く、行政、包括、地域の参加者からの質問や感想、助言等を多く受けられている。次回の会議には具体的な取り組み内容を報告し、サービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	何かあれば連絡し、質問したりいろんな情報を得ながら協力関係を築いている。	施設部会には年2回ズームで参加をしている。事業所からの報告や相談事には、丁寧な説明や対応が得られ、問題解決への取り組みには協力関係が図れている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束や心理的拘束について、毎月のミーティングで話し合っている。玄関の施錠は、不審者の侵入や利用者の身を守るため、やむを得ず施錠している。	身体拘束適正化委員会は年4回実施されている。毎月ミーティングでは「スピーチロック」について職員の声掛けに「言葉の言い換え」の工夫を呼び掛けたり、又優しい声掛けで利用者を守る手立てを話し合っている。	身体拘束に関わる指針や委員会記録、事故報告、ヒヤリハットが其々ファイルされている。全職員が確認や閲覧がし易いように纏め、LINE上での経過記録や感想文の必要箇所を印字し、記録として残す事を期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について職員全員がに周知している。小さいことでも見過ごさないよう、疑問に思ったことはミーティングで話し合い、より良い解決策を心掛けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	勉強会など研修を行っている。必要に応じて話し合い、勉強している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族や利用者が納得されるまで話し合い、不安や疑問点を解決できるまで説明させてもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族が意見や苦情相談窓口があることも説明している。	毎月「ほのほのだより」が家族に送付され好評である。家族から利用者のシルバーカーの安全な使い方の提案や相談にも丁寧に向き合っている。コロナ禍5類となり、感染対策の上で面会は制限無く居室にも入室自由とし、家族の希望を出来る限り取り入れる工夫をし乍ら、信頼関係を構築している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の見解や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月20日、代表者も含め職員全員でミーティングを行い、話し合いをし、意見交換を行っている。	毎月20日定例で、代表者と全職員参加でミーティングを実施している。身体拘束、行事計画、利用者の状況等活発な意見交換の場となっている。管理者と職員間はグループLINEで、又家族ともLINE連絡交信が出来、確認も早く意見を発信しやすい環境を作っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者には日頃から職員の意見を聞いてもらっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員には研修をしてもらったりしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ネットワーク作りや研修などの機会を設け、サービス向上に取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者、家族の困っていること、不安に感じていることを傾聴し、安心されるまで対話を心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込み時には十分な時間をとり、本人や家族の不安や要望などに耳を傾け、安心して入居できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援	本人と家族の話を聞き、状況を把握し、		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としている支援を見極め、他のサービスも含めて説明している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護や援助だけでなく、家族の一員として、能力に応じた家事などに参加していただくようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と本人が、ゆっくり家族との絆を大切にさせていただけるよう支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族との連絡を定期的に行なっている。できる限り、家族や馴染みの深い方々の面会などには配慮している。	利用者のお弟さんの面会が年に数回ある方は、一緒に外出や自宅での食事の機会もある。偶数月の訪問理容も馴染みの人であり継続している。月に1度介護相談員の訪問で、1時間談話の交流がある。馴染みの人との継続的な訪問や交流を尊重して支えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの個性を把握し、孤立せずに関わり合い、支え合えるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了時にも、必要に応じて相談などの支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握	本人との対話を持って気持ちを訊き、関	入浴中や就寝までの時間に、自然に寄り	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	心のあることを深めるよう努めている。	添い傾聴する様に接している。中でも共に「笑い」が出る様な話題や場面を提供している。利用者が好みの品や希望の思いがあれば、実現出来るように職員間で共有している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族より今までの生活環境などを詳しく伺って、本人にどのケアが適切かを職員同士で話し合い実践している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人に合った生活リズムを大切にして、体調の変化に気を付けて、楽しく過ごしていただけるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月20日、ミーティングでカンファレンスを行い、見直しがあれば変更している。近々、サービス担当者会議も再開したい。	利用者個別の担当職員と、介護支援専門員がアセスメントとモニタリングを毎月見直していたが「ケアレージソフト」導入後は3ヶ月に1回と改善される予定である。家族と対面での担当者会議が暫く途切れていたが、近々再開予定である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者各個人の記録を作成して、日々の変化や気づきなどがあれば記録している。職員間での情報は常に共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急変時など、家族の対応が難しい場合は、職員が同行したりする。日用品の購入などは柔軟なサービスを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月に1回、介護相談員の訪問を受けている。時々、外出、外食などを楽しめる支援も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医に月2回、往診を受けている。24時間体制で連携をとって、急変時にも対応していただいている。	月2回協力医の訪問診療があり、歯科や他科受診の基本は家族の協力であるが、必要時には職員が付き添って受診支援している。夜間緊急発生時には協力医からの指示を受け夜勤者が対応し、24時間適切な医療支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	何かあれば情報や気付いたことを詳細に伝える。適切な対応をしていただけるように、かかりつけ医と連携している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	主治医や病院、ケアワーカー、家族と連携し、情報交換や相談を行い関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化や終末期の在り方について、できる場合できない場合もあるので、入居時に他の施設の申し込みも同時にさせていただくよう支援する。	本人と家族の意向を尊重し、随時確認や連携を図っている。昨年は1名の看取りを行ったが職員からは「自分の家族や身内の自然な姿の様に感じています」との言葉も聞かれた。過去5年間で7名の看取り経験があるが、振り返りをしながら事業所での最大のケアに努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置の仕方、急変時の対応は医師に連絡して指示を受ける。救急対応での訓練は定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震など、利用者が避難できるように職員全員が行動できるように訓練を定期的に行っている。地域とも協力体制を築いている。BCP会議も実施している。	年2回防災避難訓練を実施し、消防署の専門的な実践指導を受けて共有している。消防署主催の「車椅子の使い方・防災講話」に利用者と一緒に参加をして困難な避難移動も体験出来た。7日分の備蓄品をローリングストックで上手く確保と循環をさせている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	挨拶や言葉掛けは必ず行っている。聞きなれた馴染みの言葉遣いで対応している。プライバシーに関しては、細心の注意を図り接している。	利用者の意向を確認し〇〇さんと呼んでいる。利用者への節度を守り、出過ぎた処が無いように心掛けて接している。浴室と脱衣室では、必ず衣服を整え確認してからの出入りを徹底配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや訴えには耳を傾けて、できる限り思いに添えるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の体調をみながら支援し、意思や希望に沿って支援することを心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの物を着ていただき、清潔にしている。施設での訪問理容を利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者に野菜の皮むきや盛り付けなどを手伝っていただいている。	職員が買物する食材と、近隣より届けられる季節の野菜や冷蔵庫に有る品とで、その日の献立を決めて三食調理している。皮剥きや盛り付けは利用者も活躍している。月に1度おやつレクでは、ホットケーキやぜんざいに人気があり「食」が1日の楽しみと喜びの場面作りになるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援	一人ひとりの体調に合わせ、摂取してい		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ただいている。水分は一度に沢山ではなく、こまめに摂っていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に一人ひとり、洗面所で口腔ケアをしていただく。自分でできない方は支援させていただく。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄のパターンを把握し、個々に応じ声掛けをして、見守りでトイレでの排泄を支援している。	布パンツ使用の利用者は、夜間巡視以外にも根気良くトイレ誘導を続けていて現状を維持されている。夜間ポータブルトイレ使用者はいない。自尊心への配慮も大切に、身体機能に応じて誘導時間帯や見直しをしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄確認表に記入し、医師の判断により内服薬で調整したり、食事や水分にも気を付けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は介助支援が必要なため、2組にわけて1日おきに入浴していただいている。本人に合わせて支援している。	週に3回午前中の中の入浴で、身体機能によっては湯舟の出入りを職員2人で介助している。ジャグジー付き浴槽で、体の芯まで温まり楽しい入浴時間は好評である。入浴剤でお湯の色も楽しみ乍ら、湯舟にはシャワーで掛け流し湯にしてあり常時綺麗なお湯にしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1日を通して利用者に合わせて、ゆっくりした生活を送っていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	居宅療養管理指導を活用しているため、医師、薬剤師より指導していただき、服薬支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中から、好きなことや得意なことを見つけて一緒に行ったり、気分転換を図っていただくよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事計画により、四季を肌で感じられるよう、外出、外食の支援を行っている。	年間行事計画に添って季節の花を楽しめる外出支援を実施している。1月は「あがた神社」に全員が初詣に出掛けた。毎年春には事業所前の公園の桜の下で、お弁当を広げて談笑する場を設けて、利用者が戸外で過ごせる恒例の花見がある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者のお金は施設で預り金として管理し、必要に応じてその中から出させていただく。利用者が購入を希望された時などに出金する。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば電話や手紙の支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を取り入れ、壁には利用者と職員と一緒に製作した作品を飾っている。花などを共有のスペースに飾って、四季の変化を楽しんで生活していただく工夫をしている。	季節感漂う共同作品がリビングの壁一面に貼られ、利用者同士の会話や家族面会時の話題の一つになっている。母の日や誕生日、ご近所から届く花々が華やかに飾られている。リビングの壁側には大きなソファが置かれ、テレビを見たり談話など、寛ぎの共有空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士で自分が座る場所を決めて座られています。時には思い思いのところで過ごされている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は利用者が居心地よく過ごせられるよう、家族が本人のために工夫されている。(写真、ぬいぐるみなど)	居室の広さは様々であるが、収納場所や棚の設置が豊富で物が散らからず、床が広々としていて安全な動線である。家族の思いや利用者の生活歴が伺われる写真と小物類が個性豊かに飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人でも安全に歩行したりできるよう、各所に手すりを設置したり、トイレや浴室などわかりやすく表示している。		